



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 2018年の日本経済と医薬品産業

5

## — 環境変化とグローバル・ヘルス —

ヘルスケア産業の中核の一つである医薬品産業は「経済成長」「イノベーション」「健康寿命延伸」の3つの課題にどう対応すべきであろうか。その背景にある、医薬品企業を取りまく、2018年時点の基本条件の変化を検討する。

10

### 1. 医薬品産業

医薬品産業は医薬品企業は製薬企業とも呼ばれ企業によって構成される。医薬品企業はヒトの健康を増進させることを目的に、疾病を予防、診断、治療する製品を供給する企業とする。この医薬品企業は利潤追求の私企業として運営されるのが通常であり、その結果、医薬品企業間で市場競争が存在し、この点、利潤動機を前提としない医療機関その他の公的機関とは異なる。しかし医療企業はヒトの健康に直接に係るために、製品の安全性、有効性を確保するためにさまざまな政府の規制が行われる。これらの規制は製品の研究開発、製造、販売までにわたる。

15

20

医薬品企業はそれぞれ異なる成長を経ている。このため個別の事例研究が必要になると同時に近年医薬品企業に共通する各種の変化に直面している。また、医薬品産業は日本、アメリカ合衆国、ヨーロッパ各国、アジア各国等、国や地域の影響が大きい<sup>[1]</sup>。

25

<sup>[1]</sup> 日本の医薬品産業の統計データについては日本製薬工業協会『Data Book』（毎年）、2000年代半ばまでの医薬品産業分析としては姉川知史「日本の医薬品産業」吉森賢編『世界の医薬品産業』東京大学出版会、2007を参照。

この事例教材は慶應義塾大学大学院経営管理研究科の姉川知史が授業・セミナー教材として作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 姉川知史（2018年6月作成）